

# 農業



令和5年7月号  
会誌 No. 1705

## 目次

### 巻頭言

- ワンヘルス……………林 良博 3  
—ヒト，動物，環境の共存—

### 論 壇

- 有機農業は変わったか……………藤本 潔 4

### 農事功績者座談会

- 家族全員が共同経営者として……………北田 晴男 6  
リンゴを核とした複合経営の実践  
—若者が憧れる農業を目指して—  
富士子  
現地指導者のコメント……………高橋 好範 14  
意見交換 …………… 15

### 地域セミナー 秋田

- 循環型農業の可能性を探る……………川崎 訓昭 22  
—資源インフレ下におけるコスト管理—  
パネルディスカッション…………… 24

### 食を楽しむ

- 粉にしなくてもそば麺ができる！……………井上 直人 36

### 研究の最前線

- 植物性プラスチックを肥料に変換するリサイクルシステム…青木 大輔 37  
—廃棄プラスチックからパンを作る—

### 農業・農村の現場から

- 今日から始める農家の経営改善……………佐川 友彦 44  
—農家の右腕が教える改善の進め方—

### 世界の農業は今

- 豊かな社会の実現……………木村 純子 50  
—テリトリー戦略によるイタリア農村地域の活性化—

### 私の経営と志

- 和歌山県有田地域でカンキツ作経営……………小澤 光範 56  
—SNSを活用して輸出にも挑戦—

### 農家の気持ち

- 土と内臓……………ボンド垂貴 58  
—農業で共生する体を育てるために—

### 農政情報

- …………… 59

- 編集部から …………… 59

- 大日本農会だより…………… 60

### 会誌『農業』に関するアンケート

#### 表紙写真説明

#### 草千里とあか牛（熊本県阿蘇市）

元来、阿蘇は高地冷涼な気候である上に、火山性土壌のため生産性が低く、農業生産に適した土地ではありませんでした。こうした環境で農業が発展した背景には、「世界農業遺産」に認定された阿蘇独自の農業システムがあります。その軸となるのは、草原の維持に必要な「野焼き」「放牧」「採草」の三つの取り組みです。

「野焼き」は、2月後半～4月にかけて行われます。地面の表面を素早く焼き、土中の根や種に影響を与えないため、生物多様性を維持する観点でも重要な役割を担っています。

「放牧」は野焼き後、4～11月頃まで行われます。春から秋までの連続放牧が主流であり、あか牛（あかげおしゅう褐毛和種）が草原に放牧されている風景はまさに阿蘇の象徴です。

「採草」は初秋に行い、刈った草を堆肥や飼料として活用します。阿蘇で多種多様な作物が栽培できているのは、人々が農業活動を通して草原を維持しているからです。

（写真および文：阿蘇地域世界農業遺産推進協会 坂本 琢）